

# ケリ抱卵を放棄？

## 鳴門 レンコン畑に巣

鳴門市大津町段関のレンコン畑でチドリ科の鳥、ケリが卵を抱いていた。種付けの準備で耕しに来た斎藤政明さんが気づき、巣を避けてトラクターを動かした。親鳥はその様子をじっと目で追っていた。それから1週間余り。



羽をばたつかせ侵入者の気を引くケリ。いずれも鳴門市大津町段関

「縁があつて巣を作つたのだろう」と斎藤さんは孵化を楽しみにしていたが、ケリは卵を置いたまま姿を消した。

ケリは湿地を好み、あぜ道に巣を作るとはよくある。

だが、斎藤さんは畑の中での巣掛けは初めて見た。卵は4個。昼間はつがい付近を飛び回り、日が暮れると巣に戻



巣作ったレンコン畑の卵はかえらなかつた

り温める。巣に近づくと、1羽が体をよじって羽をバタバタさせる偽傷行動を繰り返す。侵入者の気をそらす。

田に水を張る時期だが、かわいそうだと思ひ、時折遠くから双眼鏡で見守っていた。孵化まで約2週間かかる。しかし、いつの間にか抱卵を放棄し、ケリは飛び去つた。

「巣立ちを見たかつたのに：」と斎藤さん。畑に水を張つた。

日本野鳥の会会員の吉田和人さんは、「夜だけ抱卵することは考えられない。周りの雰囲気が変わつたので、しばらく様子を見ていたのだろう」と話す。

斎藤さんは、妻の倫子さんと日ごろから環境に優しい農業を目指している。生き物のすむ自然再生農業に取り組んでいる徳島大のプロジェクトにも協力している。

(長谷川大彦)